

# 目標とのギャップを埋める 2年生0学期への意識付け

2年生は生徒の学力差が拡大し、進路意識の醸成度にも差が出やすい学年である。

2年生になる前に、1年生として掲げた目標を再確認し、残された時間で出来る限りギャップを埋めるよう、動き始めさせることが重要だ。

目標の振り返りが2年生への第一歩だと認識したい。

※このコーナーは、高校の先生方との会議を経て制作しています。掲載しているデータなどは、先生方が実際に活用されているものを基にしています。

図1 教師のための「指導のブレ」振り返りシート



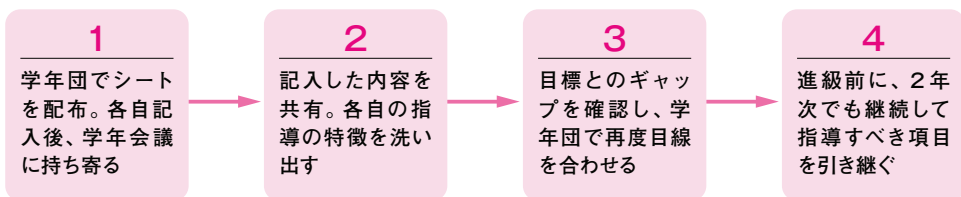
● 約束が守れていない生徒への指導状況を把握する

	4月当初の約束事	生徒の状況(多・少・なし)	どのような指導で改善を図っているか
授業	授業に集中していない	少	授業構成のメリハリをより意識している
	予習をしていない		
	復習が十分でない		
	宿題をやってこない		
	テストの復習が出来ていない		
クラス運営	提出物の締め切りを守らない		
	遅刻・早退をする		
	服装・頭髪のルールが守れない		
	掃除を怠っている		
部活動ほか	クラス活動への参加が消極的		
	部活をさぼりがち		
	下校後まっすぐ帰宅しない		
	ゲームや携帯電話に夢中		
	読書の習慣が身につけていない		
	大学・学部への関心が薄い		

● 成果が上がり、更に継続したい指導を把握する

	約束順守から更に伸ばす項目	生徒の状況(多・少・なし)	どのような指導が有効だったか
授業	予習・復習を欠かさない		
	積極的に質問に来る		
	不得意科目を克服した		
	得意科目を伸ばした		
	週・月単位で学習計画を立てている		
クラス運営	遅刻・早退が極めて少ない		
	授業開始時の着席が徹底している		
	服装・頭髪のルールが守れている		
	クラス活動が大いに盛り上がる		
	教室の清掃、整頓が出来ている		

● 振り返りシート活用のステップ



【教師間でのデータ活用】  
4月の目標と現在の指導とのギャップに気付く

学年団全員の目線合わせのために



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。  
<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

## プラス $\alpha$ の指導

### 新しく学年団に入った教師への 引き継ぎ資料として活用

現1年生の指導を経験せずに次年度の2学年団に参加する教師にとって、**図1**は、生徒把握のための格好の資料となる。これにより学年団に参加する教師全員が生徒理解にプレがなく、根拠を持って指導に当たることが出来る。また、マイナスの情報だけでなく、指導が功を奏した学年団としての長所や、個々の生徒のプラスの面を伝えることによって、新しく学年団に加入した教師に対し、「この部分は更に伸ばしていこう」という前向きな引き継ぎを行うことが出来る。

### 生活指導のリスタートとして、 指導のプレを振り返る

衣替えのある6月や10月は、服装に対する指導の目線合わせが行われることから、生活指導に対する学年団の意識も高くなる。しかし、0学期に当たるこの時期は、衣替えなどもなく、生活指導全般に対する教師の意識はあまり高くない。この時点で指導のプレを振り返り、生活指導への教師の意識を改めて高め、学年で足並みをそろえた指導が出来るよう、リスタートを切りたい。

### 重要課題に対処する 特別チームを編成

**図1**の結果に基づいて指導に当たる際に、期間限定の対策チームを編成するのも有効だ。2年生までに絶対に改善しておくべき項目については、学年団の中で指導が特に成功している教師をリーダー役とし、目標とのギャップを埋める指導を実現したい。定期的に指導の進捗と生徒の状況を各教師がリーダーに報告し、目標の達成状況を確認する。最後まで改善を目指す学年団を維持すると共に、教師間の指導の継承を促すことにつながる。

### 活用後のフォロー

◎各教師が**図1**に記入した内容をクラスごとにまとめたい。各教師が把握した状況と模試の成績や定期テストの結果をクロスすることで、「授業への真剣度と成績」や「学校のルール順守と学力」などの相関を見ることが出来る。これまで各教師が感覚として認識していたような相関をデータとして示すことで、生徒への指導につながるだけでなく、教師間の指導力の継承としても有効だ。掃除や生活ルールを軽視する生徒に対しては格好の説得材料になり、保護者への意識付けとしても活用できる。更に、データを蓄積することで学校特有の文化が形成され、その学校での指導経験が少ない教師にとっても指導の足掛かりとすることが出来る。

### データ活用 のねらい

## 各教師が指導を振り返り、共有する

**2年生0学期の意味を理解する**●2年生になると、生徒の学力や進路意識に大きく差が出始める。そこで、4月に定めた目標を振り返り、2年生になる前に基本的な約束事の再徹底を促したい。2年次進級前に目標とのギャップを埋めるために動き出すことが、2年生0学期の意味だと、まずは教師が理解したい。

**4月の目標を基に指導のプレを是正**●この時期は、学年団に「あと三か月でこの学年団から抜けるから」といった意識を持つ教師が現れ始め、指導の足並みがそろい難くなる。そこで、**図1**を使って、4月当初に定めた基礎的な約束事を守らせることが出来ているかを確認したい。学年会などで、評価の部分を共有し合えば、「本当に生徒の現状が把握出来ているか」が明らかになる。また、生徒の実態の項目を基に「約束事を守らせるためにどういった指導を行っているか」や、「約束事を守れている生徒が少ないのに、なぜ指導を見直さないのか」といった、指導を振り返る機会とする。

### データ活用 の流れ

## 個々の振り返りから学年団の取り組みに

**振り返りを各自のリセットにつなげる**●学年団で4月に定めた目標について生徒の現状を評価し、教師一人ひとりが自身の指導を振り返り、各項目についてどのようなアプローチをしているかを記述していく。学年会などで各自のシートを持ち寄り、発表することで、4月時点の取り決めがどれだけ生徒に浸透しているか、また、浸透していないものに対して各教師がどのような対策を講じているのか、学年で把握する。目標とのギャップが見えてきたら、改善に着手。2年生になる前に動き始める。

**実態を踏まえた次年度計画の裏付けに**●指導が徹底できていない項目については、優先的に2年生への引き継ぎ事項とする。次の学年団は、前学年団の振り返りを基に目標を設定できるので、生徒の実態に合った学年目標が立案できる。

### 目標との ギャップを見つけ 高2の計画立案に 生かす

学年会の前に**図1**を配布。4月当初の目標を振り返り、生徒の状況、個々の指導の現状を記入

4月の目標とのギャップが見えたら、改善に向けてすぐに着手する方法を検討

改善を要する項目について、成功事例の紹介などを通じて、学年団の指導力を底上げ

2年生になる前に改善に向けて取り組みを始める。それでも積み残した課題は、次年度への課題として引き継ぐ



## プラス $\alpha$ の指導

### 面談の優先順位を見極める

1年生3学期には早くも生徒の学力、進路意識の差が拡大し始める。進級前に巻き返しを図るためにも、**図2**、**3**を用いた面談での意識付けが重要になる。学校行事でとまった時間が確保できないときは、面談の優先順位を見極めたい。進級が危ない生徒は定期考査2週間前に面談を実施する。また、部活動を途中で辞めてしまった生徒などは、年度当初の目標を見て、気持ちが追い詰められてしまう可能性もある。一律に目標を振り返らせるだけでなく、リセットして新たな一歩を踏み出す支援も必要だ。

### 「基礎を大切に 教師のこだわり」を見せる

1年生の学習内容は、入試に必要な学力の基礎となると、その重要性を生徒に認識させることは重要だ。そのために、教師自身が基礎の定着にこだわる姿勢を見せたい。例えば、模試や校内テストでの復習を課外で行い、基礎的な事項のみの小問群を全問正解できるまで追試を繰り返す。基礎部分の正誤で追試か否かが決定するため、成績下位層が早々に合格することもありえる。苦手意識を過度に持たせない方策としても取り組んでみてはどうだろう。

### 学習以外の活動にも 広く目を向けさせる

生徒がやる気になっている新年という時期を利用して、学部・学科研究や大学研究などに新たに取り組ませたい。これにより、2年生のオープンキャンパスが更に効果的になる。また、さまざまな資格取得、ボランティアなどの学外活動にも目を向けさせ、生徒自身の興味と可能性を広げていく。そうして、学習以外にも頑張れることを見付けさせることが、結果的に進路選択に生きてくるはずだ。

### 活用後のフォロー

◎2年生になった自分をイメージしたり、入学時に描いた自分とのギャップを知ることで、生徒は「このままではいけない」と強く感じるはずだ。だが、そこで教師が何も手を打たなければ「2年生になってから変わればよい」と取り組みを先送りしてしまう可能性が高い。変わった方がいいのではないかと思ったタイミングを逃さずに、「今から少しずつやってみよう」と声を掛け、更に学習時間調査などを用いて変化を目に見える形にすることでモチベーションを維持させたい。今変わろうとしない者は2年生の4月になっても変わらないし、今は2年生で新たなスタートを切るために積み残しをなくしていく期間だと繰り返し伝えたい。

### データ活用 のねらい

## 振り返りを2年生への目標設定につなげる

**入学時の目標と現在の自分のギャップに気付く**●この時期には先の目標を意識させる前に入学時の目標を振り返り、今の自分と比較して、生徒に自分の足りない部分に気付かせることが重要だ。ギャップを埋めるための行動をすぐに開始させることで、生徒一人ひとりの1年生3学期が2年生0学期に変わっていく。

**文理選択で高まった意識を維持させる**●文理選択は高校生として初めての進路決定であるにもかかわらず、これを3学期のモチベーションとして利用するのは容易ではない。生徒の意欲向上に結び付きにくい理由の一つに、文理選択の結果が2年生での生活にどのように影響するかが生徒にとって分かり難く、文理選択による変化が見えづらいことが挙げられる。そこで**図3**のような先輩データを活用し、部活動などが同じ属性の先輩をモデルケースとし、「2年生ではこんな学習に取り組むのだ」といった自覚を持たせることが大切だ。

### データ活用 の流れ

## 未来と過去から考えさせる

**目標と現状のギャップから新たな目標を設定**●入学時に生徒に書かせた高校生活への抱負や目標を生徒に返却し、自身の目標を振り返らせる。そして**図2**などに入学時の目標を記入させたら、現在の自分の状況と生じたギャップについて考えさせる。自身の不足を正確に把握できているか、教師は面談などで確認したい。その上で、ギャップを埋める取り組みを始められるよう支援していく。

**自分と同じ属性の先輩データを励みにさせる**●2年生の担任団に**図3**のようなデータ収集の主旨を説明し、協力を仰ぐ。その際は、2年生が今の自分を振り返ることにもつながることを付け加えたい。その後、文理別、部活動（運動部・文化部）別などで整理し、1年生に提示する。生徒は自分の属性と重なる先輩のデータを見て、危機感ややる気を持つはずだ。面談で似た属性の先輩を例にして、進級前の今必要な学習などを解説したい。

### 過去に描いた 目標と 未来の自分から 「今」を考える

**図2**を基に入学時の目標と今の自分とのギャップに気付かせる

**図3**で文理の別を中心とした2年生の様子を伝える

面談で**図2**を使い目標とのギャップを埋める方法を提示。また、**図3**を用い、2年生になる前に必要な学習と一緒に考える

目標に近付くための取り組みが継続するよう日々の声掛けで支援する